

ちょっといい話 (No.5)

令和元年度 「あこがれのミニボラビブス」

国立吉備青少年自然の家

毎年最後のウーリークラブ・ウリソツクラブは合同での開催で、両クラブに参加した家族や子供たちが一緒になって活動をし、同じ時間を過ごしている。

合同開催では、ウリソツクラブの保護者がアイデアを出し、それが活動内容に反映されている。今年度はハロウィンにちなんでのハロウィンカレーづくりや参加している大人と子供をシャッフルしてのグループ活動など、これまでの経験をもとに皆が楽しめるアイデアを出してくれた。

さらに今回から、新しく「**ミニボラ制度**」が始まった。保護者企画会の中で、今後のウリソツクラブのあり方を考えた際に、「**ウリソツクラブの目指すゴールは、子供たちが成長し、法人ボランティアに登録すること**」との意見が保護者から出されて賛同が得られた。そこで、ウリソツの小学生の中から、ミニボラを任命して、子供たちのリーダーとして様々な役割を果たすという「ミニボラ制度」が誕生した。

ミニボラの子供たちには、開会式で**ミニボラの証である「ミニボラビブス」を貸与**した。「ミニボラビブス」は、法人ボランティア用の黄色ポロシャツを模した黄色のビブスだ。

ビブスを受け取ったミニボラの小学生たちは、照れくささもありませんながら、早速リーダーとしての自覚を持って活動していた。班になって移動するときには幼児に合わせてゆっくり歩いたり、つどいの役割を決めるときには、積極的に立候補し、しっかり準備をして臨むことができたりしていた。

黄色のビブスは、年下の子供たちにも良い影響を与えた。「自分も早くビブスが着たい。」「あの黄色い服はどうしたら着られるの?」と**子供たちにとってあこがれのビブス**となり、子供たちの成長ややる気を後押ししている。

